

## 特集にあたって

特集担当：斎藤正武（中央大学）

テーマ名：「MOT はビジネスに貢献するか」

我が国の産業競争力の回復・製造業再生の鍵の1つとして、技術のマネジメント MOT (Management Of Technology) に期待が寄せられています。

実際、日本には20を越すMOTコースが大学及び民間機関において設置され(表1参照)、今後さらに増加する傾向にあります。また経済産業省は、平成14年度補正予算事業において、MOTコンソーシアムを立ち上げ、25の大学・大学院と16の企業が連携したカリキュラム開発を開始しています。(http://www4.smartcampus.ne.jp/)

一方、MOTに関して先を行く米国においては、200以上ものコースが大学機関において存在し、80年代の低迷した米国の競争力強化に大きく貢献しました。米国のMOTのコースの発展には2つの流れがあり、ビジネススクール(経営大学院)から出てきたものと、エンジニアリングスクール(工学大学院)の中から出てきたものがありますが、現在はMITのように両者が融合・連携しつつあります。そして米国のMOT発展において特に、経営工学(IE)関連の学科が推進役を果たしたとも言われています。

そこで、本号(経営システム誌14巻第1号)では、MOTを特集することにしました。日本経営工学会としてMOTについてのどのような姿勢で取り組み、何をなすべきかを、産官学それぞれの立場から、実際の取り組みをご披露していただくと共にご提言をいただくことになりました。具体的には執筆者として、「官」より経済産業省橋本氏に、「産」よりソニー中村研究所豊島氏、大阪ガス松本氏、

日立製作所林氏に、「学」より芝浦工業大学岡本氏、北陸先端科学技術大学院大学亀岡・近藤氏、早稲田大学大学院大学黒須氏、大阪工業大学田浪氏、東京大学大学院丹羽氏にお願いしました。

MOTの目指すものは何か、MOTと既存の経営工学の違いは何か、MOTは日本のビジネスや製造業再生に貢献するか、経営工学の立場からMOTを支援し協力することは可能か、また、その方法は何か、さらに「新たな価値づくり」に必要なマネジメント技術の方法論はどうあるべきか等「MOTに関連する新潮流」を探ります。本特集を通して、経営工学の関係者にもっとMOTについて理解を深めてもらうと共に、自分たちの進むべき方向のヒントを与えられることが出来ればと考えています。

大学入試情報図書館 RENA より作成(2003年9月)

大学院名及び企業名	専攻及びプログラム名
大阪大学大学院	経済学研究科経営学専攻/工学研究科エンジニアリング・ビジネス専攻
慶応義塾大学大学院	経営管理研究科
高知工科大学大学院	工学研究科
神戸大学大学院	経営学研究科
芝浦工業大学大学院	工学マネジメント研究科工学マネジメント専攻
筑波大学大学院	ビジネス科学研究科
東京工業大学大学院	総合理工学研究科
東京大学大学院	工学系研究科
東京理科大学大学院	総合科学技術研究科総合科学技術経営専攻
同志社大学大学院	ビジネス研究科ビジネス研究専攻
東北大学大学院	工学研究科技術社会システム専攻
名古屋工業大学大学院	工学研究科産業戦略工学専攻
日本大学大学院	グローバルビジネス研究科テクノロジー・マネジメントコース
北陸先端科学技術大学院大学	知識科学研究科技術経営コース
横浜国立大学大学院	環境情報学府環境マネジメント専攻技術マネジメントコース
立命館アジア太平洋大学大学院	経営管理研究科経営管理学専攻
早稲田大学大学院	アジア太平洋研究科国際経営学専攻
(株)アイさぼーと	アイさぼーとMOTスクール
(株)グローバル	グローバル オリジナルMBAプログラム
(株)サイコム・インターナショナル/日本MITエンタープライズ・フォーラム	エグゼクティブMOTプログラム
2004年以降 開学予定	

表1 MOT スクール一覧